

水辺の青空美術館始まる

12月20日まで 市民の力作131点、豊堤にずらり

延岡

川の流れを背景に絵画を鑑賞する「水辺の青空美術館」が、延岡市中央通十丁目から須川右岸豊堤できょうから始まった。横90センチ、縦180センチの板に市民が描いた131枚が、豊の代わりに豊堤に立てられてずらりと並んでおり、主権の同美術館実行委員会（木原万里子実行委員長）は、多くの鑑賞を呼び掛けている。12月20日まで、無料。



豊堤に立てられた作品を前に行われた審査会（きのこ）。新作は板田橋南詰め側に展示されている

「フー五ヶ瀬川の豊堤を守る会（木原会長）」が中心となって、2019年から同美術館を行っている。

雨に流れない絵の具を提供して「ふるさと延岡」をテーマに作品を募集。初年に79点、2年目に31点、3年目の今年は21点が集まり、この区間にある豊堤131基がすべて埋まった。

新作の内訳は一般4、高校生7、中学生4、小学生2、保育園3、審査員近藤庸夫さんの作品1。きのこは新作を対象に審査会が行われ、近藤さんと小泉進さん（延岡学園美術講師）が審査した。

一般・高校生の部は、「のべおか天下」新能で使われる小面を画面いっぱいに描いた大坪眞佐子さん（延岡市中町）が、昨年に続き最優秀賞に輝いた。他にも延岡の自然の豊かさを表現した作品、名所・名物を描いた作品など力作ぞろい。表彰式は、20日午後1時30分から現地で行われる。

「新能、アユ、北川の温泉など、それが自分が感じる延岡の良さを前面に押し出して描いてくださった。それが131枚もそろった、延岡ってすごいなと思う。見ないともったいないです」と木原実行委員長。また、131枚を運搬、設置する作業は重労働。設置できたのは上田工業、国交省、県土木事務所、市土木課のご協力のおかげ」と感謝した。

審査結果は次の通り。

【一般・高校生の部】
最優秀賞 大坪眞佐子（延岡市中町）
▽優秀賞 服部智優（延岡商業高校）